

「世界ポリオデー」によせて

ポリオ・プラス／職業研修チーム委員長

福田 哲三



1979年のフィリピンでのワクチン投与を経て、1985年にロータリーはポリオ撲滅を「最優先テーマ」として掲げました。その後、WHOやUNICEFならびに各国政府との連携のもと、1988年に35万件も発生していたポリオが30年後の2018年にはわずか12件だけとなりました。ロータリーの壮大な挑戦であり、人類の悲願である『ポリオ撲滅』が大きく現実味を帯びてきたのです。最後に残っているのはアフガニスタンとパキスタンの国境沿いの山岳地帯。タリバンによる妨害を受けながらも両国政府は『ポリオ撲滅』を目指して必死の努力をしています。厳しい環境でワクチン投与に奮闘するポリオワーカーたちを私たちはサポートしていかなければなりません。

海外でロータリアンたちと活動を共にすると、ヨーロッパであれ、北米であれ、アジアであれ、必ず『End Polio』が共通の話題となります。30年以上の努力の中で醸成された120万人のロータリアンの心を繋ぐシンボル＝絆です。そして『世界ポリオデー』は文字通り世界中でポリオ撲滅へのインスピレーションを高める一日です。

Rotary

ポリオのない世界まで
あと少し

endpolionow.org/ja

ジュディ・オング

2013年に始まった当地区の『ワールド・フード+ふれ愛フェスタ』（WFF）も「ポリオ撲滅」活動の一環です。第1回WFFではシカゴの本部から『公共イメージ補助金』（2万ドル）をもらって『あと少し』のパネルを40枚ほど設置しました。これは今でも続けています。また毎回、収益金の一部を「ポリオ撲滅基金」に寄付しています。第6回の今年は10月27日と28日の開催です。特に27日には日本のエンドポリオ大使であるジュディ・オングさんを招いて『エンドポリオ・ナイト』（チャリティディナー）を開催します。

10月24日の「世界ポリオデー」から始まる当地区の『エンドポリオウィーク』を皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思ひます。